

12. 天敵類を活用した加温アレキのハダニ類防除法（技術）			
[要約] 土着天敵と導入天敵を活用した防除体系により、加温アレキのハダニ類を抑制できる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	0869-55-0543

[背景・ねらい]

加温アレキではハダニ類の被害が特に問題となるが、殺ダニ剤のみでは対応が困難である。そこで、天敵類を活用した防除体系を確立し、減農薬で高品質なブドウ生産に寄与する。

[成果の概要・特徴]

1. 加温開始までに施設内外を清掃し、ハダニ類の越冬場所となる雑草や放置物を除去する。
2. スパイカル（ミヤコカブリダニ製剤）を開花期頃から早期加温栽培では 20～30 頭/10 m²（約 3 坪）、普通期加温栽培では 30～60 頭/10 m²の密度で、50～100 か所/10a に 1～2 週間間隔で 3 回放飼する。
3. 7 月以降は土着天敵のハダニアザミウマとカブリダニ類を保護するため、薬剤防除はできるだけ控える。
4. ハダニ類以外の害虫は、耕種的防除や天敵類に影響の小さい薬剤を組合せて防除する。

[成果の活用面・留意点]

1. 無加温栽培では発生する害虫が多く、殺虫剤の使用頻度が高いため、本体系は早期および普通期加温栽培で活用する。
2. 普通期加温栽培では、5 月中旬～6 月上旬にチャノキイロアザミウマの防除を徹底する。

[具体的データ]

月	作型		ハダニ類	注意事項
	早期	普通期		
12月	加温開始		施設内外の清掃 ハダニ類の越冬場所となる雑草、 放置物などを除去する 発生源はないか？チェック	ハスモンヨトウの発生が多ければ、 ヨトウコン-Hを設置する(早期)
1月		加温開始	施設付近にはなるべく残渣置き場 を作らない(早期) すそ部分の二重ビニル内や 施設外に放置したビニル下に雑草 がないかチェックする	トビイロトラガが発生した場合には、 放飼前までにジェットVPで防除する (早期)
2月	開花期		スパイカル 放飼 (早期)	ミカンキイロアザミウマ防除に使用 するアーデントは、ミヤコカブリダニ に影響があるので使用しない 施設内に花き類を持ち込まない
3月		開花期	スパイカル 放飼 (普通期)	普通期ではスパイカル(ミヤコカブリ ダニ)の放飼時期が遅れないように する
4月			ハダニ類	チャノコカクモンハマキの発生が多 ければ、ハマキコン-Nを設置する (普通期)
5月	収穫期		ハダニ類	チャノキイロアザミウマの防除は、 ミヤコカブリダニに影響の小さい 薬剤(アドマイヤー、コテツなど)を 使用する(普通期)
6月			ハダニ類	スパイカル(ミヤコカブリダニ)は6月 下旬以降、ハダニ類の抑制効果が 低下する傾向がある(普通期)
7月		収穫期	ハダニアザミウマ	トビイロトラガの防除には、ハダニア ザミウマに対し影響期間が短い薬 剤を使用する
8月			ハダニ類	収穫後、ハダニ類が多少の発生で あれば防除は必要ない
9月	収穫後、天窓 ビニルを除去 するとハダニ 類が少なくな る傾向がある		ハダニ類	秋にトビイロトラガの発生が多けれ ば、9月中旬までに防除する
10月			ハダニ類	10月下旬～11月上旬のハダニ類の 密度が低ければ、翌春の越冬密度 も低い
11月			雑草や粗皮下 で越冬	ハスモンヨトウの発生源となる雑草 を除去する 果菜類などは間作しない

図1. 天敵類を活用した加温アレキのハダニ類の防除体系

[その他]

試験研究課題：天敵を活用した温室ブドウのハダニ類防除技術の確立

予算区分：国補（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立事業）

研究期間：平成 11～15 年度

関連情報等：平成 13 年度試験研究主要成果

「温室ブドウにおけるナミハダニの越冬場所」

平成 14 年度試験研究主要成果

「加温アレキにおけるハダニ類の土着天敵の種類と発生消長」

「温室ブドウのハダニ類の土着天敵に対する薬剤の影響」

平成 15 年度試験研究主要成果

「加温アレキのハダニ類に対するスパイカル（ミヤコカブリダニ製剤）の使用法」